

「コメディリリック第6回」「ラブラブチャレンジャー」

「パパ活したい」

登場人物

満男

チューマン

莉子

テオ・ポー

※満男、板付き

【し・明転】

満男

「……………パパ活したい！パパ活！パパ活！パパ活、パパ活、パパ活、パパ活、パパ活、パパ活！」

※莉子、登場

莉子 「いい加減にしてよ！お父さん！マジで」

満男 「パパ活したい！」

莉子 「うるせーよ！」

満男 「とんかつ食べたい！」

莉子 「知らねえよ！勝手に食え！」

満男 「パパ活、かつ、とんかつ食べたい！」

莉子 「うるさいうるさい」

満男 「なあ莉子、せめてパパって呼んでくれない？お父さんじゃなくて」

莉子 「はあ？」

満男 「パパって呼ばれたら少しはこのパパ活欲もおさまるかもしれないしさー」

莉子

「嫌だ。気色悪い」

満男

「気色悪い？お前…誰が精子出したおかげで命があると思ってるんだ！」

莉子

「本当にやだ。いい加減にして！しかも出勤前にさ！まだ朝の7時だからね！」

満男

「舐めんなよ」

莉子

「はあ？」

満男

「年寄りの早起き舐めんなよ。お前にとっては朝の7時かもしれないねえけど、俺は2時に起きてるから、体感、実質、12時だから」

莉子

「それでも早えな！中年がパパ活なんてワード出していい時間帯なんか無えんだよ」

満男

「お前さ、敬えよ」

莉子

「はあ？」

満男

「俺ら世代のこと。敬えって。スマホとかツイッターとか俺らの世代が頑張ったから今、お前らが当たり前に使ってるんだからな」

莉子

「この流れでその系統の説教する？」

満男

「リップとかDMとか俺らが頑張ったから、出来るんだからな？」

莉子 「パパ活関連のワードで説教してくんじやねえよ」

満男 「退職金使い込も」

莉子 「やめろ」

満男 「退職金、パパ活に使いも」

莉子 「やめろって」

満男 「お前や、孫に一円も残さず、かつ、パパ活に全部費やそ」

莉子 「その、かつ、パパ活って二度と使うなよ」

満男 「そもそもお前が俺の理想の娘だったらこんなこと言ってないんだよ！」

莉子 「何で私がキレられてんの？」

満男 「この俺のパパ欲はお前のせいだ」

莉子 「自分の性欲を娘のせいにしてんじやねえよ」

満男 「お前の知り合いでパパ活やってる女の子紹介してくんない？」

莉子 「はあ？」

満男 「いや、だって、もう、いすぎてわかんなくて…それに全然知らない女の子だったらちよっと抵抗あるじゃん」

莉子 「知らない子の方が絶対いいでしょ」

満男 「いや違うのよ。パパ心分かってくんないかなー？実の娘の友達だったら安心してパパ活できるし…頼むよ」

莉子 「知らん。知らん。勝手にやって。マジで」

満男 家を出ようとする莉子。を止める満男

満男 「ちよ、待つて、待つて。本当に教えてつて」

莉子 「いや、もう、仕事行かなきゃだから！」

満男 「お前にしつかりサポートして貰わないと、父さん、自分が怖いから！」

莉子 「もういい加減にしてよ！天国の母さん泣いてるよ！」

満男 「天国とか無いから、死んだら誰でも無」だから」

莉子 「冷めてーな！クソ親父！」

満男 「今日さ、会社休んで、父さんのパパ活についてきてくれない？」

莉子 「行かねーよ！そもそも、お父さんパパ活が何かわかってんの？」

満男

「わかってるよ。いいか『パパ活』って単衣に言っても色んな形のパパ活があるんだ」

莉子

「はあ」

満男

「パパは大きく分けて3種類存在する」

スライド パパ活①

満男

「一つは「食事パパ」これは文字通り食事を共にするだけのパパだな。一人でご飯を食べるよりパパ活女子とご飯を食べる方が美味しく感じる：料理にパパ活っていう魔法の調味料をぶっかけたようなもんだ」

莉子

「うるせえうるせえ」

スライド パパ活②

満男

「次に「出張パパ」定期的にその街に出張に来るパパのことだな。お前のパパは東京に住んでるので該当しないと」

莉子

「縁切ろうか迷ってるから」

スライド パパ活③

満男

「最後に「関係アリのパパ」基本的にはパパ活は、肉体関係がないのが前提だが、実は、関係アリでもOKな場合もある！ウインウインの場合に限りな！ウインウイン！ウインウイン！」

莉子

「いや、もうさーそうだったら援助交際とか愛人契約と変わらないじゃん。やめなよー」

満男

「勿論、アリパパにはならないよ」

莉子

「アリパパって」

満男

「いるんだよなー女の子が求めてない肉体関係を求めるクソみたいな勘違いパパがさ。だから俺が一回でも多くパパ活すること、一回分、そんなクソパパのパパ活を減らしてることになるだろ？」

莉子

「関係ないんじゃない？」

満男

「お前の心配もわかるよ」

莉子

「心配してないけど」

満男

「そんなことしたらさ、関係アリパパ同盟に命を狙われるかもしれない」

莉子

「何の話をしてるの？」

満男

「待ってるんだよ！」

[M・感動の音楽—C—]

満男

「沢山のパパ活女子たちが、今日も大丈夫かな？平和にパパ活できるかな？って不安でいっぱいだよ」

莉子

「いやさ、そんな正義感を振りかざしたのなら難病の子供たちのためとかに金使いなよ」

満男

「確かに難病の子供たちは可愛い。でも、パパ活女子たちも可愛いんだぞ」

莉子

「気色悪い」

〔M・感動の音楽—FO〕

満男

「お前、誰の種があつたからこの世に生を受けたと思ってるんだ！」

莉子

「いちいち気持ちわりいな。はっきり言つてそんなパパ活なんかする女クソだから、ほっとけって」

満男

「クソでもいい。いや、クソの方が安心する。父さんもクソだから」

莉子

「自覚あんのかい」

満男

「父さんは真摯に、紳士的なパパになる」

莉子

「はいはい」

満男

「心から誠実に宮沢賢治の小説のように純愛にパパ活をする、そうしたら、もし

莉子

かしたら、好きになつてくれるかもしれないし」

「行つて来ま—す」

※莉子、はける

満男

「パパ活、かつ、婚活—！」

〔L・暗転〕

—了—